

科目名	農業基礎科学	教員名	東田 修司 古屋 接雄	開講 コース	作物生産 花 園 芸	1年次	前 期
<p>・目的と内容</p> <p>実習、演習を含めた環境農学科の授業を理解するための基礎的スキルを学ぶことが本講の目的である。  本講の前半では農業生産に関わりの大きい単位と計算方法及び化学の基礎について学ぶ。  後半では、これまでに勉強してきた生物学の中で、特に農業生産に必要な基礎知識として、作物の特性や光合成・遺伝などの分野について学ぶ。</p>							
<p>・授業計画 [ 単位数：2単位、授業週数：15回 ]</p> <p>[ 前期 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農業現場で用いる単位、長さ、面積、重さ、体積、時間など単位の基礎と相互変換の方法など</li> <li>2. 単位を用いた計算の方法、パーセントの活用</li> <li>3. 単位を用いた計算の方法、肥料計算の基礎</li> <li>4. 化学と農業</li> <li>5. 原子と分子</li> <li>6. さまざまな分子</li> <li>7. 化学反応の基礎と1～6回のまとめ</li> <li>8. 農業とは？ 生命現象とは？</li> <li>9. 地球環境と生きものの形質、進化と生きものの多様性</li> <li>10. 光合成</li> <li>11. 生きものの成長</li> <li>12. 遺伝</li> <li>13. 生物の特性と環境</li> <li>14. 農業現場の計算</li> <li>15. 農業・農村と私たちの暮らし</li> </ol>							
<p>・講義の進め方</p> <p>プリントをベースに様々な関連資料を活用して授業をすすめる。単調な知識の羅列にならないように環境問題などのトピックスを学んだ内容から解き明かすなど、考える授業としたい。授業中に計算問題を行うので四則計算のできる計算機を持参する。理解度を確認するために小テストを実施する。</p>							
<p>・試験と成績評価</p> <p>課題別テスト（レポート）出席日数などを総合的に勘案し評価する。</p>							
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>本講で学ぶ基礎的内容を身に付けないと、他の講義の理解を深めることはできない。学んだことは使うことによって磨きがかけれ、さらに広くて深い学びへのきっかけとなる。単に講義を聞く態度ではなく、自ら考え、計算などの作業を行いながら受講して頂きたい。</p>							
<p>・使用教材</p> <p>プリントおよび関連資料を配付する</p>							